

でんさい利用企業からの事例紹介

2021年7月14日

国際紙パルプ商事株式会社

目次

- 1** 会社概要
- 2** でんさい導入前の支払方法
- 3** でんさい導入までの取組
- 4** 導入時に苦労した点等
- 5** でんさい導入の効果
- 6** 今後の課題

1

会社概要

会社概要（2021年3月末）

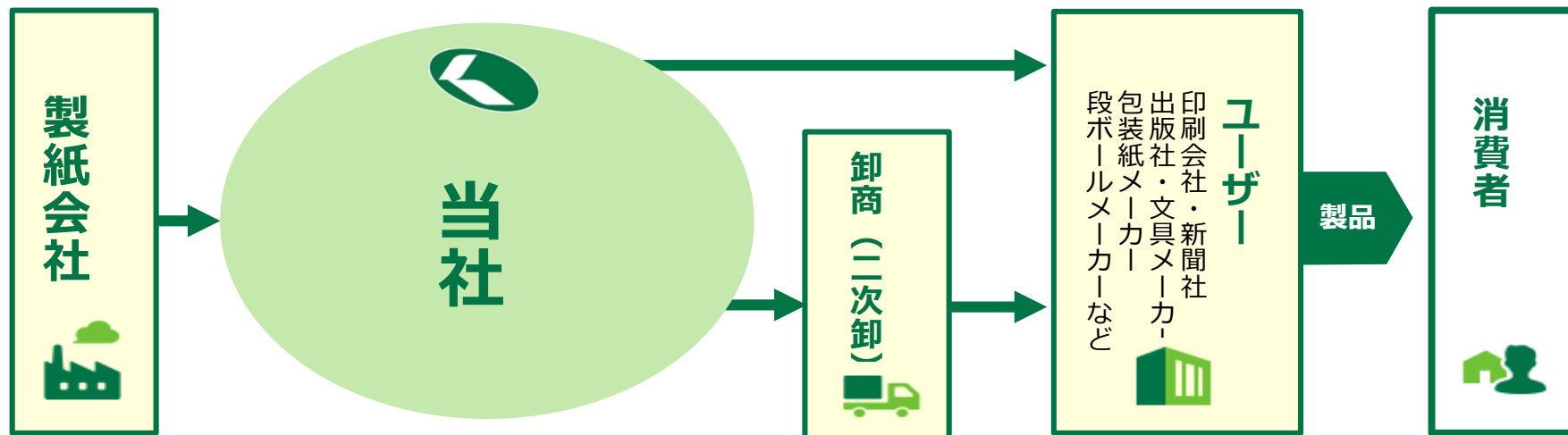
・ 創立96年の紙卸売代理店

会社名	国際紙パルプ商事株式会社
設立	1924年11月（大正13年）
代表者	代表取締役会長 兼 CEO 田辺 円 代表取締役 社長執行役員 栗原 正
本社所在地	東京都中央区明石町6-24
資本金	4,723百万円
従業員数	5,530名（連結）

大株主*	王子ホールディングス株式会社	17.3%
	日本製紙株式会社	9.2%
	株式会社みずほ銀行	3.9%
	国際紙パルプ商事従業員持株会	3.8%
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3.6%
	株式会社三菱UFJ銀行	3.5%
	株式会社三井住友銀行	3.5%
	農林中央金庫	3.5%
	北越コーポレーション株式会社	3.4%
	三菱UFJ信託銀行株式会社	2.9%

*持株比率は自己株式を控除して計算

国内における当社の基本ビジネスモデル

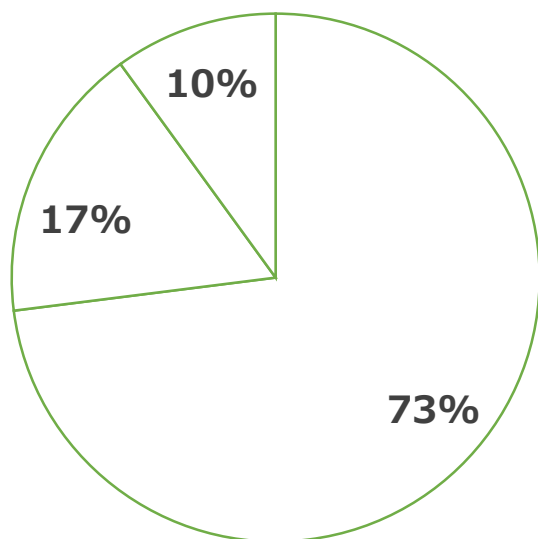


2

でんさい導入前の支払方法

でんさい導入前の支払方法

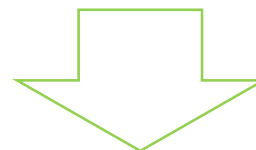
導入前の支払割合



振込	13,000件
手形	3,000件
ファクタリング	1,700件

全体に占める割合は少ないものの、
毎月では手形発行が**250枚程度**あり

代わる便利な支払方法はないか



でんさいネット

3

でんさい導入までの取組

でんさい導入までの取組

2010年5月	「でんさいネット」の設立が決まったことを受け、導入検討開始。
2010年12月	業界内での普及促進を図るため同業者と共同で検討開始。
2011年5月	業界団体の定期会合内において、(株)全銀電子債権ネットワークの松本社長（当時）を講師に迎え、説明会を実施。
2011年10月	「でんさいネット」稼働開始日決定（2012年5月）を受け弊社内でシステム対応を中心とした検討の開始。
2012年3月	仕入先向け（手形振出先のみ）にでんさい導入に関するアンケートを実施。
2012年4月	「でんさいネット」稼働開始の延期が決定。
2012年11月	全銀協主催「でんさいネットの利用促進に関する勉強会」に出席。
2013年2月	でんさいネットサービス開始とともに導入。

4

導入時に苦労した点等

導入時に苦勞した点等

課題1

取引先への説明

弊社が導入を準備していた当時は、でんさいへの認知度が低く「とりあえず様子見」という会社が多く、なかなか導入に応じてくれませんでした。




同業他社と共同で進めることにより、徐々に応じてくれるようになりました

課題2

システム開発

支払請求データをシステムで作りこむためシステム改修が必要で、多額の一時費用が必要でした。



印紙税額の削減効果ですぐに回収できる旨を説明し、社内理解を得ました。

5

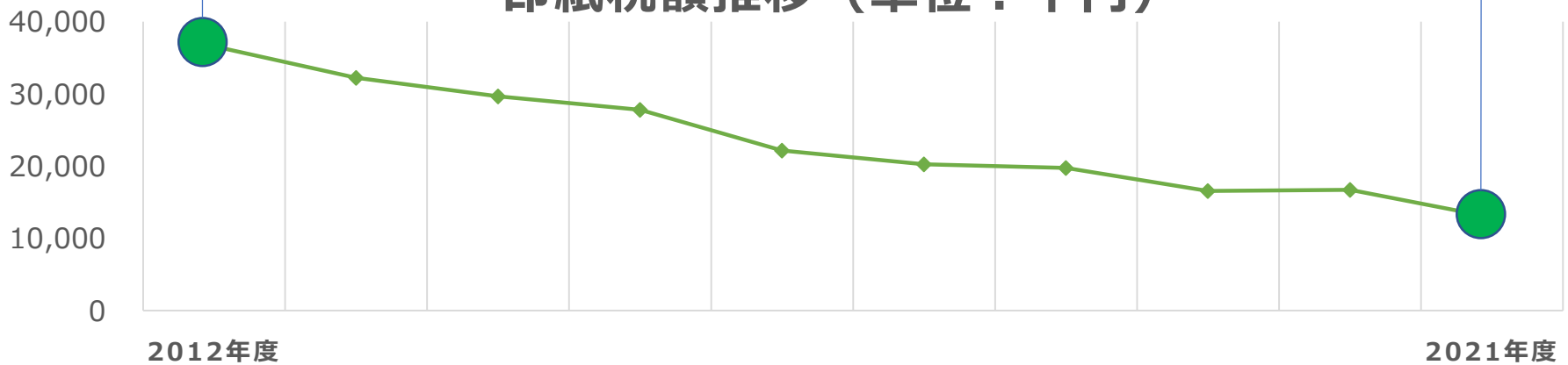
でんさい導入の効果

でんさい導入の効果-印紙税の削減

37,000千円

12,000千円

印紙税額推移（単位：千円）

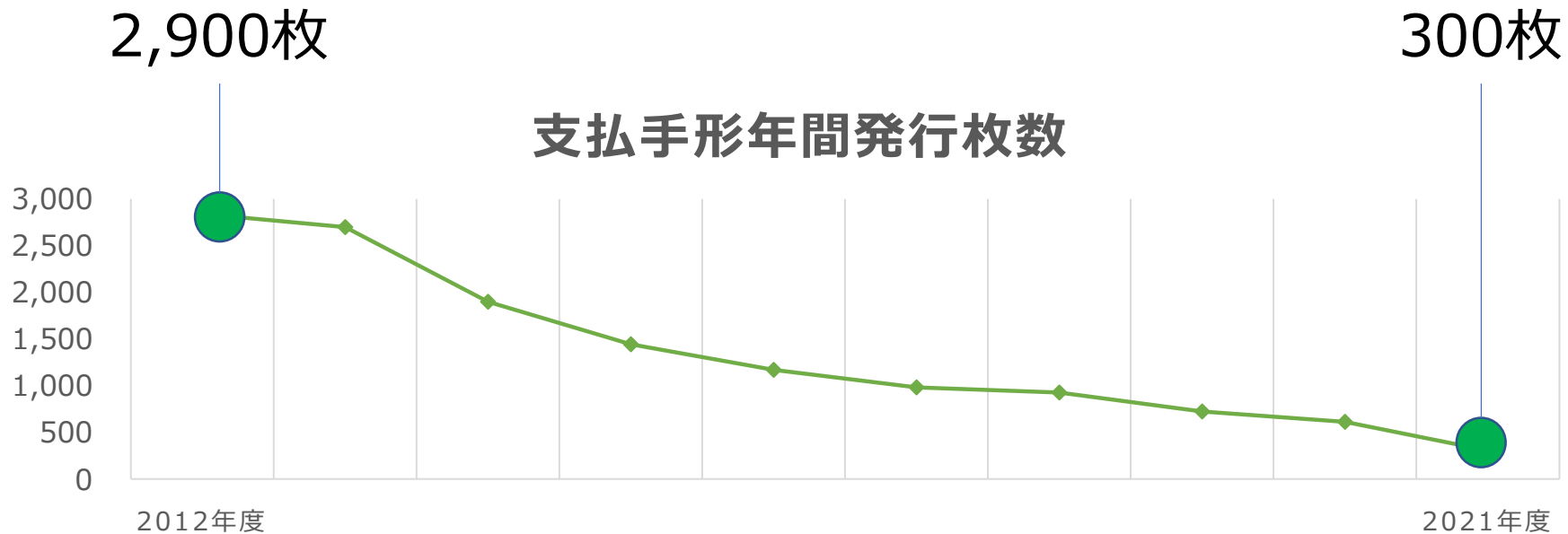


支払・受取の両面で、でんさい導入を推進した結果、印紙税を大幅削減！

37,000千円（2012年度）→12,000千円（2021年度）

年間▲25,000千円の削減！

でんさい導入の効果-作業コストの削減



発行枚数の減少により、発行・券面チェック・捺印・郵送・領収書管理等の作業負担が大幅削減！

2,900枚（2012年度）→300枚（2021年度）

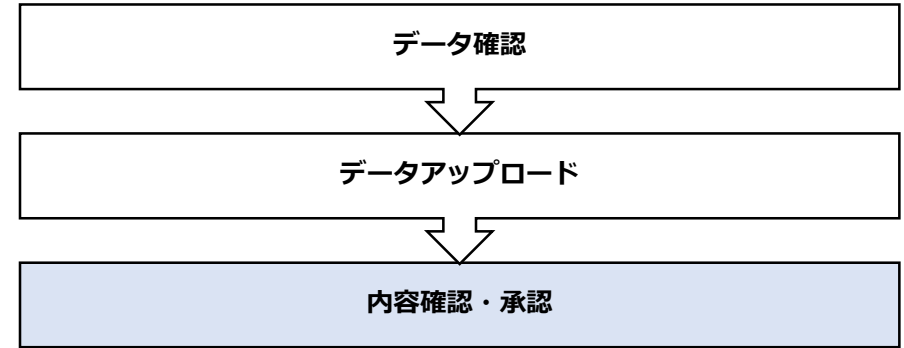
年間▲2,600枚の削減！

でんさい導入の効果-作業コストの削減（支払）

手形



でんさい



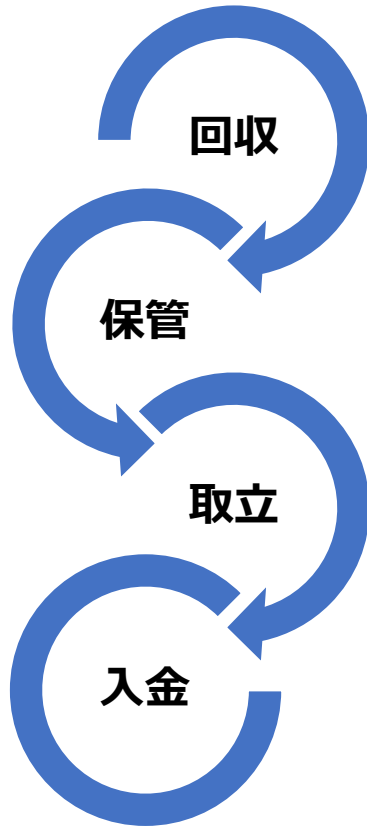
30分以上もの時間短縮！

1カ月：6日（振出日数）×30分 = **180分以上削減**
圧倒的な時間効率！

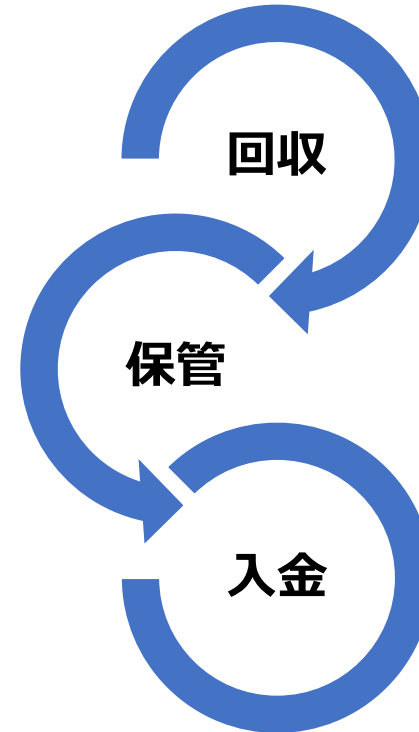
でんさい導入の効果-作業コストの削減（受取）

手形

でんさい



- 郵送到着→領収書発送
- 集金→領収書手渡し
- 券面情報登録
- 金庫にて保管
- 取立情報登録
- 裏書作業
- 銀行持込
- 期日に入金



- データ上で到着を確認
- 券面情報登録
- データとして保管
- 期日に自動で入金

回収～入金まで各工程での管理が**ほぼゼロ**に！

6

今後の課題

課題1

支払手形の全廃

でんさい導入前は年間2,900枚程度の手形発行をしていたが、直近では年間300枚まで減少。全廃が目標なので、でんさいへの切替交渉を継続。

課題2

受取手形のでんさいへの切替依頼

手形の取扱いがテレワーク推進の妨げになっている。
コロナ禍で徐々に切替が進んでいるが、継続して切替依頼中。

課題3

手数料

でんさい発行にかかる手数料が400円～800円程度なのに対し、手形発行にかかる最低印紙税が200円（10万円未満は0円）。
でんさいに切り替えた場合、支払人側でコスト増に繋がるケースがあり、普及の課題となっている。

7

最後に

切替時の取引先への案内や社内対応が大変だ、



切替が済んでしまえば、印紙税削減や事務コスト削減など
様々なメリットを享受できます！

でんさいネットHPにある取引先への案内文フォーマットなどを活用
して是非切替を進めて頂くことを**強く**お勧めします！



紙でつなぐ、未来を創る

A Paper Trail for Creating the Future.



国際紙パルプ商事株式会社